

COLLEGE INFORMATION



甲子園短大通信

甲子園短期大学 発行

「甲子園短期大学は昭和三十九年四月に創立しましたが、その母体は昭和十六年、校祖久米長八先生によって創立された甲子園高等女学校にあります。先生は、『国家発展の原動力は女性』であると、将来を予見する教育の基本を示され、『愛情豊かな知徳円満な女性を育成する』ために私学を以て興されました。この女子教育についての先生のお考えが前学院長久米利男先生に受け継がれ、本学は創立しました。さて、学校教育には、その学校の



祝 甲子園短期大学入学式

入学式は四月五日、甲子園学院理事長・学院長久米知子先生はじめ、ご来賓の方々のご臨席のもと、学院高専講堂において執り行われました。早坂三郎新学長から以下のような式辞がありました。

平成二十九年
入学式

創立および教育・研究上の目的の基盤となる建学の精神が重要ですが、校祖久米長八先生が教育の根幹に据えられた学校法人甲子園学院の校訓三綱領「勉勵努力」「和衷協同」「至誠一貫」を本学の建学の精神とし、幅広い一般教養と専門的な知識・技能が修得できる教育課程を編成し、熱意溢れる教職員がきめ細やかに指導し、誠実に努力を積み重ね、明日の社会の発展に貢献できる人材の育成を教育理念とし、資格取得そして卒業・就職への道を支援しています。尚、本年度より、生活環境学科はライフキャリアフィールドと介護福祉フィールドを新設し、資格選択の自由度を高め、また幼児教育保育学科には教職指導への本学独自のプログラムを用意しています。さらには、全学的にこれからの少子高齢化社会に備えて生活および活動場面への教育と福祉もその教育基盤に加え、本学の特徴の一つである特別演習などにより、学びの実践性を高めて参ります。

以上の本学の教育内容が適格であり、優れていることは、文部科学省による教職課程実地視察および平成二十八年年度第三者評価機関別評価結果からも確認できます。何より、これらの教育成果は本学学生の皆さんの学びへの真摯な姿勢と百々に及ぼんとする就職率となつています。

本学での二年間の中で積極的に研鑽・努力し、豊かな人間関係と素直に聴き・受け容れる誠実さを以て、有意義で楽しい学生生活を送られますことを心より期待致しております。」

これを受け、新入生代表の小畑文乃さん(幼児教育保育学科)のお礼の言葉と「校訓三綱領である勉勵努力・

和衷協同・至誠一貫の教えのもと、人格形成に努めることを誓います。」との宣誓がありました。

第三者評価で「適格」認定を受けました

本学は、平成二十八年年度一般財団法人短期大学基準協会による第三者評価を受審し、「適格」と認定されました。学校教育法第109条によると、国公私立すべての大学は七年以内に一回文部科学大臣の認証を受けた評価機関による第三者評価を受けなければなりませんとされています。短期大学基準協会は認証評価機関として文部科学大臣の認証を得て、短期大学教育の継続的な質の保証を図り教育の向上・充実に資することを目的に評価を実施しています。今回の「適格」認定により、本学の高等教育機関としての教育の質が保証されたこととなります。

第三者評価は、平成十七年にスタートし、平成二十四年から第二クールがはじまりました。本学は平成二十八年年度受審となり、自己点検・評価報告書の書面調査、および四人の評価員による訪問調査・質疑応答を受けました。

評価は大きく四つの基準ごとに評価されます。短期大学基準協会により「短期大学の教育の成果を把握したうえで改めてその責任と役割を確認し(基準Ⅰ)建学の精神と教育の効果」、その達成のために提供される教育や支援の状況を明らかにして(基準Ⅱ)教育課程と学生支援)、

その教育研究活動や短期大学組織を支える資源を把握し(基準Ⅲ)教育資源と財的資源)、全体を統制する仕組みを評価点検する(基準Ⅳ)「リーダーシップとガバナンス」とされています。本学はすべての基準で「合」と評価され、総合的に適格と認定されました。本学はよりよい教育を目指しさまざまな教学改革を執行し、現在に至っておりますが、本学の目指すべき方向性やさまざまな取り組みが有効であることが認められたこととなります。

特に優れた試みであると評価された事項として、基準Ⅰに関して、甲子園学院創立以来の校訓三綱領「勉勵努力」「和衷協同」「至誠一貫」を建学の精神とし、建学の精神の理解と実践を目指し総合教養科目に必修教科「人間教育の基礎」を開講していること。また、基準Ⅱに関して生活環境学科で実施してきた卒業研修会が充実・改善の結果として短期大学全体を包括する研修会になるとともにキャリアアップ研修会へと発展していること。基準Ⅲに関しては、教養教育の一つとして学内の施設を利用した宿泊実習が行われ、学生の生活力向上と人間関係力の向上に活用されていることなどが評価されました。

今回の評価結果を受け、今後さらによりよい教育を目指し、全学あげて教育の充実発展に取り組みたいと考えております。



評価結果証明書

車の運転

専任講師 中村 美智代



免許をとったのは学生の時でした。教習所で四苦八苦しなごら、なんとか免許を取得できました。当初、初めて手に入れた小さな赤い車に乗り込むときは、頭の中は行き先への道順のシミュレーションと緊張感でいっぱいでした。フロントガラスから見えるものを見逃すまいと釘付けになり、車を止めるのも車幅がつかめずに一苦勞しました。車から降りるときはすっかり疲れていました。

当時、私は入所施設で働いており、毎日一時間ほど車通勤をしていました。最初は苦勞していた運転も仕事も少し慣れてきたある日、仕事帰りにボタンと閉めたドアの音と、そのあとの車内の静けさ。次に顔を上げて前を見た時にフロントガラスから見える風景は、すべていつもと同じなのに、なぜか力が抜けてホッと自分がいきました。運転して帰る道もいつもと変わらないものでしたが、明らかに「変わった感じがしました。後で思うとその時の私は、日々の業務の流れを覚えることや、利用者の対応、職員とのコミュニケーションを「うまくやりたい」ということばかりがずっと頭に残っていて、仕事の区切りがつけられず、ワークライフバランスを崩しがちになっていたのだと思います。その時以来、車

My Favorites

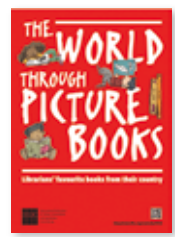


のドアをボタンと閉め、その後の静けさを感じた後、フロントガラスを見て、好きな音楽を選んで、発進することが、私にとつてのオンとオフのスイッチになりました。

それから月日は流れ、オンとオフのスイッチもなんとか使いこなせるようになった頃、私は日常的に車に乗らない生活に変わっていました。そうなるに今度は、旅先でレンタカーを借りて運転することが楽しみの一つになりました。ドアをボタンと閉め、いつもと違う風景がフロントガラスから見ると、好奇心がいつぱいになります。エンジンをかけて、車を走らせると、車の高さから流れていく風景は、街中のビル、郊外の町の風景でも、雄大な自然の山々や海岸沿いの風景でも心が躍ります。

思い出深いのは、九州の山道を走行中のときのことです。山の急な天候の変化で一瞬のうちに、一面に霧が発生したことがあります。身動きが取れなくなり、停車したフロントガラスから見える風景は、写真右のようにゆつくりと霧が流れていく様も見えて幻想的でしたが、さすがに一抹の不安があり、手放して喜ばせませんでした。その後、写真左のような晴天に恵まれました。いろんなことがありますが、それでも、私にとって運転することは楽しいひとときなのです。

絵本で知る世界の国々(FLA)の展示開催



国際図書館連盟(IFLA)イフラ-The International Federation of Library Associations and Institutions)の「絵本で世界を知ろうプロジェクト」により集められ、国立国会図書館国際子ども図書館に寄贈された四十三の国や地域の絵本三六五冊がこの秋短大図書館にやってきました。各国の図書館員たちによって、その国の代表的な絵本が選ばれており、日本語に翻訳され多くの人々に読まれているものも含まれています。アメリカやヨーロッパだけでなく、アジアやアフリカの珍しい絵本を直接手に取って読むことのできる貴重な機会です。ぜひ会場ください。

なお開催期間中は、教育研究センターと共催で絵本作家の永田萌氏や料理研究家の土井善晴氏の講演会も予定しています。併せてお楽しみください。

開催期間 十一月十三日(月)〜十二月一日(金)

開催場所 図書館2階閲覧室

※講演会詳細は短大ホームページご参照

高校生エッセーコンクール募集

このコンクールは、平成二十七年頃から始めました。高校生の皆さんはいろいろな視点から家庭や学校、地域、社会のことを捉え、自分自身の夢や希望を実現するためにどのような進路を選択し将来の設計をしていくか、考え始めていることでしょうか。これからの時代を予測し、自己と社会とのかわりを考えることは、新たな自己実現とその方法の発見にもつながることになります。このコンクールへの応募が、皆さんのそれぞれの未来像の発見の機会となることを願っています。どうぞ、奮って応募ください。

募集要項

テーマ(これからの社会での自立に向けて)

- 応募資格：高等学校生
- 募集エッセー内容：未発表でオリジナルな内容に限ります。文体は自由ですが、四〇〇〜六〇〇字以内にとめてください。
- 募集期間：平成二十九年九月十五日(当日必着)まで。
- 応募先：甲子園短期大学
- 「高校生エッセーコンクール」係
- 審査員：甲子園短期大学長、同学長補佐、同教育研究センター長など
- 入賞発表：平成二十九年九月二十九日
- 表彰式：平成二十九年十月二十二日に甲子園短期大学大学祭において表彰式を挙ります。

賞

優秀賞(二点)：表彰状および副賞として一万円相当の図書カード

奨励賞(若干)：表彰状および副賞として五千円相当の図書カード

尚、各賞の受賞数は応募数等により変わる場合があります。

甲子園短大通信 第83号
(編集・発行)甲子園短期大学広報委員会
〒663107 西宮市林町四一五
TEL:0798653300 FAX:0798657901
http://www.koshien-c.ac.jp

平成30年度 甲子園短期大学入試日程

区分	エントリー・出願期間	入試相談・選考日
AO 2期	6/20 ~ 7/17	7/9、7/22
AO 3期	7/25 ~ 8/17	8/5、8/22
AO 4期	8/22 ~ 9/5	9/10
AO 5期	11/28 ~ 12/11	12/16
AO 6期	2/16 ~ 3/2	3/7
指定校推薦	9/20 ~ 10/2	10/7
推薦 1期	10/6 ~ 10/19	10/25
推薦 2期	11/2 ~ 11/16	11/22
推薦 3期	12/1 ~ 12/14	12/20
一般	1/26 ~ 2/8	2/15

平成三十年度の学生募集は、生活環境学科、幼児教育保育学科共に定員八十名です。AO入試、指定校推薦選考、推薦選考、専門学科・総合学科推薦選考、一般選考、社会人選考の各方式で実施します。現在、AO入試のエントリー受付が開始されており、エントリーシートと「課題」または「特別活動報告書」の提出後に入試相談日を設け、登録の可否が決定されます。

推薦選考、一般選考では、「筆記検査方式」「自己推薦方式」「資格方式」および「幼児教育保育学科において「音楽実技方式」を加えたいずれかの方式で選考を行います。指定校推薦では、一定の条件を満たす出願者に対して入学金の減免制度等の特典があります。

詳しくは、平成三十年度学生募集要項、AO入試ガイドをご覧ください。入試部に直接お問い合わせください。

平成三十年度 学生募集について

新学長メッセージ

「夢を邁進へ！」
学長・教授
早坂 三郎



本学は学校法人甲子園学院の校訓三綱「勉勵努力」「和衷協同」「至誠一貫」を建学の精神に据え、幅広い一般教養と専門的な知識・技能の上に、優しさと思いやりを兼ね備え、誠実に努力を積み重ね、明日の社会の発展に貢献できる人材の育成を教育理念とし、学生皆さんの希望と目的を育み、その実現のため一人ひとりのニーズに対応するきめ細やかな指導と支援を行っています。

まず、生活環境学科にはライフキャリアフィールドと介護福祉フィールドを新たに設置し、資格取得選択の自由度を高めました。次に、幼児教育保育学科には教職指導への本学独自のプログラムを用意しています。そして、全学的にこれからの少子高齢化社会での生活および活動場面への教育と福祉も教育基盤の一つに加え、また卒業後の相談体制やキャリアアップ研修などにより本学教育の実効性を高めています。

つ・な・が・り
在学生・卒業生からのメッセージ

学院高校から短大へ
幼児教育保育学科I回生 小畑 文乃
私は、子どもの時から保育士になることが夢でした。そして中学生の時に幼児教育保育学科がある甲子園短期大学へ行こうと決心し、甲子園学院高校に入学しました。高校では吹奏楽部に入学しました。楽器経験のない私はゼロからのスタートでしたが、先輩や友達、先生から多くのことを教えていただき三年間続けることができました。辛いこともありましたが、みんなで演奏することの楽しさ、努力して目標に到達する喜びを知ることができた高校生活でした。短大に入学し、今は保育の勉強に励んでいます。先生方は、優しく時には厳しく私たちに指導して下さいます。大変なこともあります。高校時代の経験を活かし、これから一層努力をして保育士の夢をかなえたいです。

高校から短大へ そして大学へ

甲子園大学心理学部III回生 松本 早代
今春、短大を卒業し、大学の心理学部に編入学しました。私は高校から甲子園学院に通っていたので、七年間甲子園学院に在籍することになりました。

初めは短大を卒業して保育士として働きたいと思っていました。実習や講義を通して先生方のお話を伺ううちに学びたいことが増え、大学に編入学する決心をしました。大学では、今までの女子ばかりの生活と環境が変わり、最初は戸惑いもありましたがすぐに慣れ、今は楽しく過ごしています。講義は、より専門性が高く、難しさもあります。しかし少人数制で、先生方はとても丁寧に教えてくださるので安心です。新しい友人も増え、充実した毎日を送っています。

平成二十九年度 オープンキャンパス

今年度も様々なイベントを企画し、開催しています。

例年、保護者と訪れた高校生が、教員や学生スタッフに学習内容や資格取得、学生生活のことなどを質問し、心配事を解消されている様子です。オープンキャンパスは、在学生や教員に本学での学習内容を聞いたり、また施設見学をしたりして短大生活へのイメージを膨らませるのにおすすめです。

今年度は、それぞれのレベルに応じたピアノレッスンや、すべての入試面接に役立つ情報をお伝えする面接対策講座を毎回シリーズで準備して皆様のお越しをお待ちしています。

オープンキャンパス予定	
8月 5日(土)	10:00 ~ 13:00
8月22日(火)	
9月10日(日)	
10月22日(日)	大学祭



各回のイベントには、各学科・フィールドの授業体験を計画していきます。詳細は、ホームページをご確認ください。

介護実習

介護福祉専攻II回生 梁間 恵理
介護福祉専攻では、二年間で四五〇時間の介護実習を行います。

今回は五月から六月にかけて、介護老人保健施設で介護過程を実践する課題に取り組みました。介護計画の立案では、評価・考察までできるか不安でしたが、行き詰った時は指導者や先生から助言を頂き、やり遂げることができました。実習最終日に利用者さんからいただいた「ありがとう」「頑張ってたね」の言葉を励みに、誰からも信頼される介護福祉士を目指します。



フラワーフェスティバル in 西宮 銀賞受賞

五月十九日から二十一日にかけて、西宮市役所前の六湛寺公園で開催された「第十八回フラワーフェスティバル in 西宮」のガーデニングコンペに、本学学生が出席しました。

「コンテナ・ハンギング部門」においては、「園芸療法実習I」を履修しているII回生が出品し、そのうち一作品が見事銀賞を受賞しました。「Welcome」というテーマで、本学の園芸実習場で栽培しているエキウムの花をメインに、多肉植物やガーベラ、ベルフラワーなどを植え込み、来た人を迎え入れるような明るくて温かみのある作品を目指しました。

審査委員の方からは、「明るく見えて安心感のある作品である」との講評をいただきました。その他にも三作品(テーマ:「惑星」)、「流れるメロデー」)、「初夏のあさ・ひる・よる」)を出展し、すべての作品が奨励賞をいただきました。

また「テーマガーデニング部門(ミニ花壇)」においては、園芸部が中心となって「ガーデニングエディング」をテーマに、ピンクと白を基調とした女子短大生らしい優しい雰囲気の商品を制作しました。昨年から部員同士で案を出し合い、授業の合間を縫って準備を進めてきました。なかなか思うようにいかず試行錯誤の連続でしたが、結果として銅賞を受賞することができました。



銀賞受賞作品

フラワーフェスティバルに 学生がボランティアとして参加



西宮市役所前の六湛寺公園の会場に「甲子園短期大学 みんなみんな集まれ」と看板を掲げたブースを設置し、一日目は「多肉植物の鉢植え」や「押し花のしおり作り」など、参加者が楽しみながら植物に親しめる企画を実施、二日目は、来場した子どもたちに紙バックと輪ゴムを使って作る「パッチングエル」や折り紙遊びをしてもらいました。子どもたちは、自分で作った「パッチングエル」に色を塗り楽しんで遊んでいました。晴天に恵まれたこともあり、たくさんの方に参加していただき、学生たちは、ブースを訪れた子どもたちに丁寧に鉢植えや工作、折り紙を教えました。また西宮市主催の「ボランティアセンター」にも協力し、訪れた人々にアンケートの依頼などを行っていました。

今回のボランティア活動を通じて、学生たちは子どもたちや地域の方々と一緒に、様々なことを学んだようでした。

高大連携講座、今年度も始まりました

高大連携講座とは、本学と連携をしている高等学校の生徒が短大の授業を体験的に受講しながら、進路選択の参考にするもので、本学の学科やフィールドの特色ある講座を展開しています。

生活環境学科では、園芸やテーブルコーディネート、介護のコミュニケーションや介護福祉士の仕事について、幼児教育保育学科では、絵本の読み聞かせや手遊びの体験、ピアノレッスン、保育の仕事についてなど、様々な講義や体験を実施しています。

県立高校からも毎年依頼があり、現在は尼崎高等学校と伊丹西高等学校・川西明峰高等学校と幼児教育・福祉に関するテーマで講座を行っています。さらに甲子園学院高等学校とは長年連携講座を開講しています。一年生にはおおむね仕事の紹介、二年生にはそれに加えて具体的な内容として短大での講義の導入部分を授業します。三年生には短大入学に向けて具体的な入試対策講座を行っています。また、五年一貫幼児教育コースの生徒は専門的な学びを深め、将来スムーズに短大の講義・演習に結びつけていけるような取り組みを行っています。高校生の真剣な眼差しや明るい表情に私たち教員も刺激を受けつつ楽しく講座を行っています。



実習を終えて

教育実習

幼児教育保育学科II回生 中村ゆうか
三週間の教育実習で年少から年長までの各クラスで実習させていただき、発達段階や言葉のかけ方の違いなどを感じました。短大で学んだことを実際に子どもたちの前で保育をする難しさを痛感しましたが、環境を整えることが子どもたちの安全な活動に繋がっていくことを学びました。

今回の実習を通して、幼稚園は教育現場であることを肌で感じ、今まで以上に幼稚園教諭になりたいという思いが強くなりました。学びや反省を活かし、夢に向かって精一杯頑張りたいです。

